



あれから10年

復興の軌跡

【特集】あれから10年

復興の軌跡…関連記事1〜9ページ

あの日から間もなく10年。傷つけられた町は一步一步復興に向け歩みを進めてきました。インフラや公共施設の再建などが進み、道路や街並みが大きく変わりました。

今号では「絶望」という名の闇の中から「希望」の光を見いだし、歩んできた復興の軌跡をたどります。



No
1212

今号の主な内容

あれから10年 復興の軌跡	1～9
町民の活躍光る	10・11
町のわだい	18

CONTENTS

3月1日号 2021

あれから10年

写真で振り返る—復興の様子—

ふるさとセンター南東



大沢地区

山田地区



役場南東



跡浜地区



織笠地区

平成23年3月11日午後2時46分、震度5弱（大沢地区は震度5強）の大きな揺れが山田町を襲った。その30分後に大津波が襲来。津波の高さは、大沢地区約6^{メートル}、山田地区約7^{メートル}、織笠地区約8^{メートル}、船越地区約13^{メートル}、田の浜地区約19^{メートル}、大浦地区約9^{メートル}であった。津波の浸水面積は、町内市街地の面積407^{ヘクタール}のうち約5割にも及ぶ209^{ヘクタール}にも達した。

山田地区では、被災直後に長崎と八幡町からほぼ同時に火災が発生。車などへの引火による大きな爆発音を繰り返しながらがれき伝いに延焼し、翌日の夕方まで燃え広がった。焼け野原となった町中心部は、かさ上げが行われ、現在は陸中山田駅を中心に商業施設などが立ち並び、家屋も建設された。

大沢地区では、家屋やカキ・ホタテ養殖の作業場などが立地する地域の約7割が浸水し、地区の全居宅棟数の約68・8^割が被害を受けた。現在は、宅地整備が完了し、家屋も建設された。来年には防潮堤が全て完成する予定だ。

織笠地区では、津波が織笠川に沿って河口から約2^{キロメートル}上流まで遡上し、河川沿いの広域で冠水して被害を受けた。川の河口に近い集落はことごとく波に

船越地区



前須賀海岸



田の浜地区

「新宅地」から見た「下」



大浦地区



元沼崎製材所周辺



さらわれた。広範囲で被害を受けた低地部ではかさ上げが行われ、現在は、家屋が並んでいる。また、新たに旧織笠小の裏に宅地が整備されコミュニティセンターや駅も完成した。

船越地区では、船越湾からの津波と山田湾からの津波がぶつかり合い、船越半島をつなぐ道路が寸断された。また、船越小学校を始め低地部を中心に多くの家屋や公共施設が被災した。現在は、高台に船越小学校が再建され、高台団地の整備も完了した。

田の浜地区では、津波によりほぼ全区間で防潮堤が破壊された。また津波襲来後に3力所で火災が発生し、火が風にあおられ山林にまで燃え移った。被災後は船越地区低地部の津波の越流により道路が寸断されたため、孤立した。現在は、高台の区画整備が完了して家屋が並び、防潮堤は来年の完成に向け工事が進んでいる。

大浦地区では、津波が防潮堤を乗り越えて海沿いの家々を破壊したが、山際の急斜面に立地する集落には及ばなかった。被災後、大浦地区から船越地区に至る道路で標高の低い部分が数カ所津波で冠水し孤立した。山際に宅地の整備がされ現在は家屋が立ち並んでいる。

年表で振り返る 10年の歩み

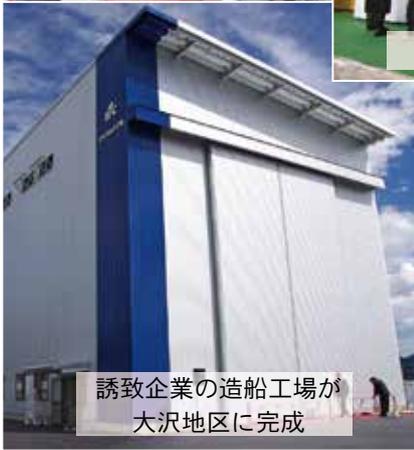
東日本大震災の発生から間もなく10年。いくつもの槌音が響き、津波で破壊された町の機能は一つ、また一つと少しずつ再生してきました。ここでは、震災後の10年の歩みを年表と写真で振り返ります。



復興事業着手式



東日本大震災犠牲者合同慰霊祭



誘致企業の造船工場が大沢地区に完成



復活したカキ小屋

平成27年 (2015)	平成26年 (2014)	平成25年 (2013)	平成24年 (2012)	平成23年 (2011)
11 5 3 3 ・ 11 25 29 11	7 7 5 4 4 3 ・ 23 20 24 29 5 11	10 10 4 4 3 ・ 10 2 21 1 11	10 8 7 3 3 1 ・ 1 4 17 11 2 31 23	12 10 10 9 8 6 5 3 3 ・ 22 29 20 1 11 26 23 28 11
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山田町犠牲者四周年追悼式を挙げる ・ 織笠地区防集第1団地第1ブロックの完成記念式典を挙げる ・ 「山田町復興まちづくり計画」を公表 ・ 「山田町観光復興ビジョン」を策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手県・山田町合同追悼式を挙げる ・ 船越小学校新校舎の落成記念式典を挙げる ・ 三陸山田カキまつりが復活開催 ・ オランダ島ハウス落成・寄贈式典を挙げる ・ 荒神海水浴場で震災後初の海開き ・ 町内初の災害公営住宅「泉宮豊間根アパ―ト」への入居開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山田町犠牲者二周年追悼式を挙げる ・ UR都市機構と業務委託協定を締結 ・ 大沢地区に観光物産館「とっと」開館 ・ 再建された船越魚市場が稼働開始 ・ 再建された山田魚市場が稼働開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山田町復興計画「中間報告」を公表 ・ 「広報やまだ震災特集号」を発行 ・ 山田魚市場が再開 ・ かき小屋がオープン ・ 「山田町復興計画」を公表 ・ 第1期産業復興棟(共同仮設店舗)八幡第1など9棟18区画が完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災発生 ・ 応急仮設住宅の建設がスタート ・ 「復興計画策定に向けた基本方針」を公表 ・ 東日本大震災犠牲者合同慰霊祭を挙げる ・ 応急仮設住宅(32カ所1542戸)すべてが完成 ・ 「山田町復興計画 中間報告」を公表 ・ 「山田町復興計画」を公表 ・ 「山田町復興計画」に関する住民説明会を開催(町内14カ所) ・ 山田町復興事業着手式を挙げる ・ 東日本大震災・大津波山田町犠牲者一周年追悼式を挙げる ・ 山田町長選挙において、佐藤信逸町長が第七代山田町長に就任 ・ 第2期産業復興棟(共同仮設店舗)完成高砂通り商店街など24棟101区画が完成 ・ 震災後初となる誘致企業の造船工場が大沢地区に完成



三陸山田カキまつり復活



観光物産館「とっと」開館



船越魚市場稼働開始



荒神海水浴場で震災後初の海開き



船越小学校新校舎の落成記念式典



山田魚市場稼働開始



鯨と海の科学館が
6年4カ月ぶりに再会



天皇皇后両陛下が本町をご訪問



県立山田病院が開院



鈴木五輪相が入閣後
初のお国入り



大沢地区復興記念「きずなまつり」



織笠地区復興記念「きずなまつり」

令和2年 (2020)						平成31年・令和元年 (2019)						平成30年 (2018)					平成29年 (2017)					平成28年 (2016)					
8	7	4	4	3	3	10	6	5	3	3	3	12	4	3	3	2	11	8	7	7	3	11	10	10	9	9	7
1	15	13	6	31	20	13	12	30	1	23	18	23	1	30	11	9	19	14	22	15	11	9	30	4	1	29	4
<ul style="list-style-type: none"> ・山田町犠牲者九周年追悼式を挙 ・台風19号豪雨災害で運休していた三陸鉄 道リアス線が全線の運行を再開 ・荒川小、大沢小、山田北小、山田南小、 織笠小、轟木小、大浦小と豊間根中の8 校が閉校 ・山田小学校の開校宣言式開催 ・山田町学校給食センターが本格稼働開始 ・台風19号豪雨災害により休館していた鯨 と海の科学館が一部再開 ・大島(オランダ島)で震災後初の海開き 						<ul style="list-style-type: none"> ・発生 ・台風19号による記録的豪雨で甚大な被害 ・三陸沿岸道路「山田地域安全センター」開所 ・元号が「平成」から「令和」へと変わる ・「山田町復興まちびらき」開催 ・三陸沿岸道路山田宮古道路開通 ・山田町犠牲者七周年追悼式を挙 山田交番が開所 やまだ斎苑利用開始 町道細浦・柳沢線全線開通 ・三陸沿岸道路山田南IC・大槌IC間が開通 ・「消防殉職団員慰霊之碑」建立 ・山田町犠牲者八周年追悼式を挙 御蔵山復興記念公園に「東日本大震災津 波犠牲者慰霊碑」建立 ・民間交番「山田地域安全センター」開所 ・三陸鉄道リアス線が全線開通 ・元号が「平成」から「令和」へと変わる ・「山田町復興まちびらき」開催 ・台風19号による記録的豪雨で甚大な被害 発生 						<ul style="list-style-type: none"> ・山田町犠牲者七周年追悼式を挙 山田交番が開所 やまだ斎苑利用開始 町道細浦・柳沢線全線開通 ・三陸沿岸道路山田南IC・大槌IC間が開通 ・「消防殉職団員慰霊之碑」建立 ・山田町犠牲者八周年追悼式を挙 御蔵山復興記念公園に「東日本大震災津 波犠牲者慰霊碑」建立 ・民間交番「山田地域安全センター」開所 ・三陸鉄道リアス線が全線開通 ・元号が「平成」から「令和」へと変わる ・「山田町復興まちびらき」開催 ・台風19号による記録的豪雨で甚大な被害 発生 					<ul style="list-style-type: none"> ・山田町犠牲者五周年追悼式を挙 山田町ふれあいセンターはびねの開所式 を挙 ・再建された県立山田病院が開院 ・織笠地区復興記念「きずなまつり」開催 ・天皇皇后両陛下が本町を訪問 ・「希望郷いわて国体」開催(本町は高校野 球軟式競技会場) ・大沢地区復興記念「きずなまつり」開催 ・山田町まちなか交流センターが供用開始 ・山田町犠牲者六周年追悼式を挙 ・鯨と海の科学館が6年4カ月ぶりに再開 浦の浜海水浴場で震災後初の海開き ・鈴木俊一五輪相が入閣後初のお国入り ・三陸沿岸道路山田宮古道路開通 ・山田消防署が落成 ・山田町犠牲者七周年追悼式を挙 					<ul style="list-style-type: none"> ・山田町犠牲者五周年追悼式を挙 山田町ふれあいセンターはびねの開所式 を挙 ・再建された県立山田病院が開院 ・織笠地区復興記念「きずなまつり」開催 ・天皇皇后両陛下が本町を訪問 ・「希望郷いわて国体」開催(本町は高校野 球軟式競技会場) ・大沢地区復興記念「きずなまつり」開催 ・山田町まちなか交流センターが供用開始 ・山田町犠牲者六周年追悼式を挙 ・鯨と海の科学館が6年4カ月ぶりに再開 浦の浜海水浴場で震災後初の海開き ・鈴木俊一五輪相が入閣後初のお国入り ・三陸沿岸道路山田宮古道路開通 ・山田消防署が落成 ・山田町犠牲者七周年追悼式を挙 					



町内で学校給食が始まる



三陸沿岸道路の山田南IC・大槌IC間が開通



町道細浦・柳沢線全線開通



大島(オランダ島)で
10年ぶりに海開き



山田町復興まちびらき



三陸鉄道リアス線が全線開通

震災から 10年の思い

復活した山田湾の景観に感動



生駒 利治さん
(大浦・72)
三陸やまだ漁業協同組合
代表理事組合長

震災後は補助金の交渉やあつせんなど苦難の連続でしたが、山田湾に再び赤と黄色のうきが浮かぶはえ縄や養殖いかだが並んでいる景観を目したとき感動したことを今でも鮮明に覚えています。

理事会中に大きな揺れを感じ、職員に逃げるよう指示を出して避難しました。しかし、職務に従事して津波の被害に遭われた職員もいて悔いが残っています。

現在、不漁や新型コロナウイルス感染症の影響により漁業を取り巻く環境は依然として厳しい状態にあります。今後は、魚類養殖にも力を入れ進めていき、来年度に実施できるようまい進していきたいと思っています。

元気な姿で町に笑顔と安心を

当時、商工会青年部長だった私は、子どもたちが震災のことを心配せずに心から笑顔で楽しんでもらいたいと、青年部の仲間と多くのイベントを企画して

きました。そして、年配の方々には、自分たちの元気な姿を見せ「これからは若者が頑張るから安心してほしい」という思いで活動をしてきました。

また、理容師として皆さんの助けになればと、避難所を回り散髪ボランティアを行いました。そのときの「ありがとう」の言葉が今でも心に残っています。

今後は、理容師の後進育成に力を入れていき、私の背中を追う息子と一緒に地元で働くことを楽しみに頑張ります。



阿部 基さん
(船越・44)
元商工会青年部長



湊 敏さん
(織笠・71)
鯨と海の科学館 館長

当時は、地獄絵図のような光景に絶望を感じました。しかし、被災した館内で目にしたのは、泥や藻に覆われながらも力強く残っていたマッコウクジラ、ミ

ンククジラの骨格標本です。これに背中を押されるように、再開を目指し、無我夢中で進んできた10年でした。そして、この道のりには、笑顔を失った私たちに、温かい笑顔で接してくれたボランティアの皆さんなど多くの方々の支援の力がありません。この「絆」と「復興への思い」によりパワーアップした鯨館では、震災での教訓を後世に伝える役目を果たしながら、子どもたちに夢と希望を与えていきたいです。

教訓を後世に伝える役目を



大津波の中を泳ぎ、泥や藻などをかぶりながらも力強く残った骨格標本。先人たちが残してくれた、町の貴重な財産です。

震災から 10年の思い



がれきの撤去作業を行うボランティアの皆さん。
町の復興は全国各地から駆けつけてくれた皆さんに
支えられてきました。

今後の人生で恩返しをしたい

発災後に災害ボランティアセンターの担当をしました。ノウハウもない状態からのスタートで、大変苦慮しましたが、災害支援の派遣職員やボランティア



阿部 寛之さん

(飯岡・43)

山田町社会福祉協議会
地域福祉課長

の皆さんに支えられ、被災者支援に取り組むことができました。そこからの10年は「何かしなれば」という思いで突っ走ってきた感じがします。日々変化するニーズに応えるため、職員でアイディアを出し合い、力を合わせて一緒に進んできました。全国の皆さんには一生かけても返しきれないほどの大きな支援をいただきました。これからの人生では、大震災での経験を活かし、できる限りの恩返しをしたいと思っています。



齋藤 順子さん

(荒川・66)

荒川婦人防災クラブ
副会長

荒川婦人防火クラブでは、炊き出しの訓練を重ねていたため、発災当時の炊き出しの要請にも戸惑うことなく応じることができました。電話が使えない状況

支援が行き届く環境に

でしたが「何かできることはないか」と自ら動き、米や梅干しなどを持ち寄って人が集まったのは「地域の力」だと思っています。震災直後は、寒い日が続いていましたので「少しでも温かいものを届けたい」という思いで炊き出しにあたっていました。冷えたおにぎりを見ては悔しい思いをしたのを覚えています。どんな災害でも「温かい食事」を届けられる環境が整うと、当時の私たちの思いがより実現するのではないかと思います。



炊き出し訓練の様子。震災当時は、町内各所で避難者のために炊き出しなどの後方支援がありました。

震災から 10年の思い

もう「想定外」と言わない



河西 寛太郎さん
(織笠・71)
織笠地区コミュニティ
推進協議会会員

大きな揺れの後、妻と義母、孫2人は自宅の2階に避難し、私は地区の避難誘導のために外へ出ました。そこで「想定外」が起こります。押し寄せた大津

波が自宅を襲い、最愛の家族を連れ去ったのです。家族を探し、安置所をまわる日々、重く長い1日に心が打ちひしがれ、下を向くしかありませんでした。10年ひと昔と言いますが、時の経過とともに心の整理もついてきました。「クヨクヨしていても仕方がない。みんなの分も元気に生きよう」と、前を向き、ピンピンコロリを目指して健康づくりに励んでいます。そして、もう「想定外」を言い訳にしないよう災害に備えています。

地元へ貢献できる漁師に



小林 秀人さん
(大浦・26)
漁師

震災時は高校1年生でした。自宅で大きな揺れに遭い家族で避難し全員無事でしたが、自宅は1階の天井近くまで浸水しました。

被災後、両親は地域や家族のために働いていましたが、私はただ見ているだけでした。「何かできたことがあったんじゃないか」と、その時の後悔もあり「地元へ貢献できる仕事を」と漁師の道を選びました。父親のホタテとワカメの養殖を手伝うようになり、できることが増えてきました。来年からは口開けにも参加する予定です。覚えることが多くなりますが一つ一つの前のことに取り組んでいきたいです。



佐々木 海音さん
(山田高校・2年)
生徒会長

当時小学1年生だった私は、自衛隊をはじめボランティア活動に励む方々の姿に心が温まったことが今でも忘れられません。このことがきっかけで、高校生

ボランティアで誰かの力に

なった今では「微力でも誰かの力になりたい」とボランティア活動に参加しています。また、現在は授業で津波の石碑や震災当時の出来事、町の復興・防災に関する事などを学習しています。将来は就職を考えていますが、山田を離れても地元のためにできることを考え、行動していきたいです。そして、ボランティア活動にも積極的に取り組み、困っている人たちを支援できるように頑張ります。



「総合的な探究の時間」の校外学習の様子(オランダ島)。山田高校では、町の復興や防災に関する事などの学習を深めています。



震災から10年 節目を迎えるに当たり

東日本大震災から10年という大きな節目を迎えることとなります。この10年は多くの町民にとって困難の連続であり、この間のご苦労に敬意を表したいと思います。

平成23年3月11日、午後2時46分、大きな揺れが当町を襲いました。昭和35年のチリ地震津波から60年が経過し、その間、十勝沖地震をはじめ幾度か津波警報が発令されましたが、事なきを得てきました。このような経験から当日も多くの方々が防潮堤に上り海の様子を眺めていた光景が思い出されます。間もなく防災無線で3メートルを超える津波到来の放送がありました。このことは陸前高田に作られた津波記念館時系列表にも明記されています。その後6メートルの津波襲来の放送があり町民はこれから大変なことが起こるのではないかと考え始め避難行動がとられました。街中は静まり返り人影が消えました。まもなく、津波は容赦なく町を破壊し続け、そして多くの尊い命をのみ込みました。それから多くの町民が避難所での不自由な生活を強いられました。このような状況では、誰もが10年後の自分の姿、町の姿を思い描くことは困難だったと思います。10年が経とうとする今、災害

公営住宅もすべて完成し高台団地もほぼ空き地がないまでに住宅の建設が進み、入居した方々の多くの思いが残る応急仮設住宅の解体も終了します。

そのほか10年間の復興計画により、町道細浦・柳沢線が開通。県立山田病院をはじめ、消防署や交番、給食センター、斎場、各コミュニティセンター、図書館など多くの公共施設を完成させる一方で、駅を中心としたコンパクトな街づくりを目標に災害公営住宅や郵便局などの集約も進めてきました。

今後は、持続可能な街づくりという観点から小中学校の再編など行政経費のからない街づくりを進めていかななくてはなりません。三陸沿岸道路の全線開通に備え、町内を回遊していただけの新道の駅の構想も実現化いたします。子どもたちの教育環境の充実のため、新小学校の建設やコロナ後を見据えたオランダ島などを活用した交流人口の拡大にも取り組まなくてはなりません。

持続可能な街にすべく、あらゆる分野で経費のかからない、そして山田に住んでよかったと評価していただけるような新しい街づくりに向け町民のご理解のもとまい進していきたいと考えています。

東日本大震災・大津波 山田町犠牲者十周年追悼式

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、本町でも尊い命が数多く奪われ、また多くの家屋が流出、焼失するなど、極めて甚大な被害を受けました。

震災から10年を迎えるに当たり、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、震災に対する記憶を風化させないため、次のとおり追悼式を執り行います。

なお、新型コロナウイルス感染症予防・拡大防止のため参列者は町内の方に限定します。**町外の方の参列はご遠慮くださるようお願いいたします。**

- ▷ 期日 3月11日(木)
- ▷ 時間 午後2時半から(開場は午後1時半)
- ※ 式典終了後も、午後6時まで献花ができます。
- ▷ 場所 町中央公民館大ホール
- ▷ 注意事項
 - ・ 追悼式は、無宗教・献花方式で行います。
 - ・ 参列に当たっては、ご供花やご供物、ご香典などは、



- 辞退申し上げます。
- ・ 会場周辺の駐車場には限りがありますので、なるべく乗り合わせの上、ご来場くださいますようお願いいたします。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用をお願いします。
- ・ 風邪の症状がある場合や37.5℃以上の発熱がある場合には、参列をお控えください。
- ◆ 問い合わせ 町総務課 (☎82-3111内線418) へ。